

宮川 雅美 論文内容の要旨

主 論 文 題 名

**Seroprevalence of rubella in the cord blood of pregnant women
and congenital rubella incidence in Nha Trang, Vietnam**
ベトナム・ニャチャンにおける、妊娠女性の臍帯血の風疹血清有病率
および先天性風疹感染の発生率

宮川雅美、吉野弘、Lay Myint 吉田、Emilia Vynnycky、本村秀樹、
Le Huu Tho、Vu Dinh Thiem、有吉紅也、Dang Duc Anh、森内浩幸

(Vaccine 2013年) in press

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 新興感染症病態制御学系専攻
主任指導教員：森内浩幸教授

【 緒 言 】

風疹を含むワクチンが依然国家予防接種プログラムの定期接種に含まれていないベトナムにおいて、妊娠女性の風疹感染に対する感受性およびその関連要因を調査すること、また、先天性風疹感染の負担を推定することを目的に、2009年から2010年にかけてベトナム・ニャチャンにおいて前向きコホート研究を行なった。

【 対象と方法 】

酵素免疫測定法により臍帯血における風疹特異的免疫グロブリンMおよび同免疫グロブリンGを測定し、対応する臨床疫学データを解析した。さらに、数学的モデリング手法を用いて全国的な先天性風疹症候群の発生率を推定した。

【 結 果 】

1988組の17-45歳の母とその新生児が登録された。風疹を含むワクチンを接種した母はいなかった。多変量解析の結果、風疹に対する感受性は、35-45歳の母と比べ、17-24歳の母は調整オッズ比で2.5倍(95%CI: 1.7-3.8)、また25-34歳の母は同比で1.4倍(95%CI: 1.0-2.1)高かった。1988名中574名の母が、すなわち全体で28.9%(95%CI: 26.9-30.9%)の母が風疹に対して感受性を示した。先天性風疹感染率は10万生児出生あたり151(95%CI: 0-322)であった。数理モデリングの結果、ベトナムでは先天性風疹症候群に罹患して出生する児が年間3788名(95%CI: 3283-4143)であり、全体の先天性風疹症候群発生率は10万生児出生あたり234(95%CI: 207-262)と推定された。

【 考 察 】

相当な割合の妊娠可能年齢の女性が妊娠期間に風疹に感染するリスクがあり、これがベトナム全土において高頻度の流産や先天性風疹症候群の負担をもたらしている可能性がある。ベトナムにおいて先天性風疹感染発生を未然に防ぐため、国家予防接種プログラムへの風疹を含むワクチンの定期接種、および妊娠可能年齢の女性や小児へのワクチン追加接種の迅速な導入が強く推奨される。